

■「効果の見える治水事業」

香川県 落合川(観音寺市)の砂防事業

『災害関連緊急砂防事業及び砂防激甚災害対策特別緊急事業』

かくざき たくみ
香川県西讃土木事務所長 角崎 巧



【落合川の被災】

平成16年8月17日、台風15号の接近に伴う非常に激しい雨の影響(最大時間雨量54mm)で、観音寺市大野原町の五郷有木では、落合川やその他の溪流で土石流が発生し、家屋の全壊2棟、半壊3棟、死者2名、負傷者2名という大きな被害が発生しました。

【事業概要】

平成16年度災害関連緊急砂防事業でえん堤工を1基、平成18年度砂防激甚災害対策特別緊急事業で溪流保全工を整備しました。これらハード整備以外に土砂災害警戒区域を県内で2番目に指定するなど、ソフト対策にも積極的に取り組んでいます。また、香川県ホームページに土砂災害危険箇所図、土砂災害警戒区域、砂防情報システム等を掲載し、多くの県民が土砂災害に関する情報を得られるようにしました。

【工事期間中の出来事】

当該事業箇所は砂岩・泥岩互層の流れ盤となっており、施工中に大小4回の法面崩壊が発生しました。そのため、切土法面をモルタル吹付やロックボルトで補強し、施工中の事故防止に努めました。

それら追加工事の関係で工程の遅延が予想されたため、その対策としてコンクリート打設能力の高いコンクリートポンプ車を併用し、えん堤の打設日数を短縮することで工程の遅延を回避しました。

また、現況溪床には、まだ大量の不安定土砂が堆積したままになっており、中小出水でも容易に土石流が再発生する恐れがあったため、掘削時に再度災害が起こらないよう、細心の注意を払いながら実施しました。

その他、幅員狭小の地元生活道路を工事用道路として使用する必要があったため、工事用車両については道路を一方通行にし、少しでも地元関係者に迷惑がかからないようにしました。

【おわりに】

今でも落合川に行くことがありますが、完成した砂防えん堤を見ると安心します。しかし、自然の驚異から完全に脱したわけではありません。自然災害は防ぎきれものではありませんが、この教訓を生かし、少しでも被害が軽減できるよう避難訓練や日頃からの備えなど、個人個人の努力や地域の連携も必要であると考えています。

《落合川の事業実施内容》

【H16災害関連緊急砂防事業】

・えん堤工1基 (平成18年3月27日竣工)
堤高:H=14.5m、堤長:L=34.6m

【H18砂防激甚災害対策特別緊急事業】

・溪流保全工(平成19年3月30日竣工)
延長:L=19.3m

◎効果量:えん堤工・溪流保全工は3,310m³の土砂流出を抑制

◎保全対象:人家15戸、耕地0.9ha、市道0.5km、道路橋2基

談話室

■「災害に備え日々の心がけを」

しらかわ せいじ
観音寺市長 白川 晴司



「音を観る 寺を観る 夕日を観る そして銭形の街」 観音寺

本市は、平成17年10月に隣接の旧大野原町・旧豊浜町と合併し、人口約6万5千人・総面積117.46km²の新観音寺市が誕生しました。

香川県の西南部に位置し、徳島県・愛媛県に接するほか高知県にも近く、地域の特性を生かした産業の活性化を図るため、工業や観光の導入を推進しながら、農林水産業及び商業などを含め、調和のとれたまちづくりに努めています。

市のシンボルは、銭形・砂絵の「寛永通宝」で寛永10年(1633年)に造られ、この銭形を見た人は“健康で長生きし、お金にも困らない”と言い伝えられています。この外、四国霊場唯一の珍しい1寺2霊場の68番札所・神恵院、69番・観音寺をはじめ、日本最古の石積式マルチアーチダムの豊稔池、総台数120台を誇る太鼓台等の観光資源があります。

さて、平成16年の度重なる台風による集中豪雨により土石流が発生し、各所で甚大な被害をもたらしました。なかでも大野原町五郷地区は山間部で急傾斜地が多く、いたるところで土砂災害が数多く発生しました。

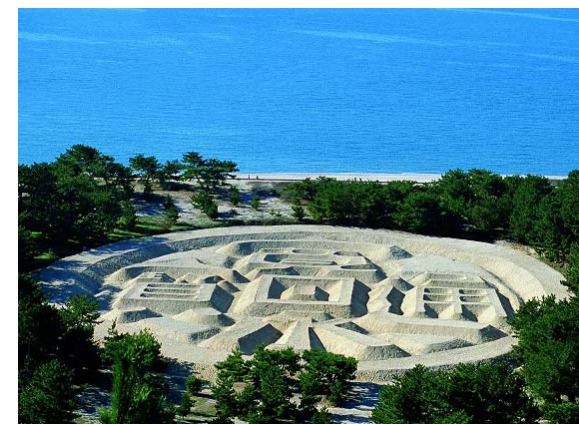
特に落合川では、台風15号による集中豪雨により土石流が発生、二級河川前田川に流入し落合自治会館が河川の氾濫により土石流に吞まれ、濁流が自主避難していた4人を押し流し、うち2人の尊い生命が失われました。

こうした貴重な体験をもとに、本市では16年災害のような人的被害を防止するため、緊急避難箇所等を記載した防災マップを19年度で作成し、本年3月に全戸配布することにしております。

また、合併により3波あった防災無線を1波に統合し、防災行政無線の整備を図るなど計画的に予防及び整備を図るとともに、今後は、河川の護岸改修や老朽化したため池改修などに取り組んでいく予定であります。一方、各自治会においても16年の災害後、46地区で自主防災組織が結成されるなど市民の災害に対する意識に変化が起ってまいりました。

被災現場の復旧につきましては、地元の強い要望を受け国・県のご尽力ご努力により災害関連緊急砂防事業として整備して頂いた安心感から、地元民は大変喜んでおられます。

自然災害は待ってくれません。発生時の犠牲をなるべく少なくしようとする気持ちを誰もが持ち、いざというとき各人が何をすべきか、そして何が出来るのかということの日々心がけておくことが大切ではないでしょうか。自助、共助、公助の実効性のある対応こそ危機管理の大原則であると思っております。



砂のオブジェ「寛永通宝」



重要文化財指定の「豊稔池堰堤」